

大 学 名	神戸芸術工科大学	担 当 教 員 氏 名	山崎 均 教授
開 講 期 間	前期 (4/15 ~ 7/29)	開 講 曜 日 ・ 時 間	火曜日 14:40 ~ 16:10
対 象 学 年	全学年	募 集 人 員	5 名程度

科 目 内 容	各時代の重要な美術作品、時代背景、日本の伝統工芸、アジアの美術・工芸を含む関連領域の文化、社会的な出来事等に関する基本的知識を理解する。海外の美術、科学技術、美術学校や美術館などの美術をめぐる諸制度、トピックを視野に収め、美術を深く鑑賞する能力を習得する。日本の美術の流れをその社会と文化的な背景を考慮に入れて概観する。縄文・弥生時代から明治、大正、昭和、平成と続く近現代の日本美術までを視野に収める。関連する日本の様々な伝統美術、西洋及びアジアの美術・工芸、芸術文化との相互交流、海外の多彩な文化の刺激を摂取しつつ、独自の美術表現を生み出してきた日本美術の特質を概説する。今に伝わる日本美術の多面的な姿、その伝統と革新の力に満ちた美術を鑑賞し、美術を創造する美術家、それを伝える人々や美術館の営み、さらに新たな時代の美術を生み出す感性について論じる。日本美術を扱う美術館学芸員としての実務経験をもとに、日本美術の収集、保存、展示、研究調査等の視点を特に大切し、作品の取扱い、素材、作品の鑑賞環境と日本美術史との関係についても詳細に講義する。	
	各回内容	
	1	全体オリエンテーション - 縄文・弥生時代、日本美術の特質、伝統と革新、アジアの美術・工芸の流れ
	2	古墳時代及び飛鳥・白鳳時代の美術
	3	奈良時代の美術 (天平時代の美術)
	4	平安時代の美術 (貞観・藤原・院政時代の美術)
	5	鎌倉時代の美術
	6	南北朝・室町時代の美術
	7	桃山時代の美術
	8	江戸時代の美術 1 (元禄時代の美術)
	9	江戸時代の美術 2 (享保・化政時代の美術)
	10	幕末から明治維新へ (開国と文明開化と美術)
	11	明治時代の美術 (日本の伝統工芸、アジアの美術・工芸、美術史の再編と近代美術)
	12	大正から昭和へ
	13	昭和時代の美術 1 (戦前・戦時期の美術)
	14	昭和時代の美術 2 (戦後・高度成長の盛衰と美術)
15	昭和から平成へ (80年代とポストモダンの諸相)、全体のまとめ	

評 価 方 法：・期末の成績評価レポート 1 回 (3000 字程度) による。  
 ・出席が 10 回に満たない者は E 評価。(授業の出席者は、〆切期限までに出されたクラスプロファイリング課題提出機能による授業レポート (毎回 800 字以上・本文欄書込み) の提出者とする。正当な理由なく〆切期限を過ぎた場合は欠席となるので注意すること。)

教 科 書：レジュメを配布する。

参 考 図 書：『日本美術の歴史』辻惟雄著、東京大学出版会、2005 年

履 修 に あ た っ て：・レポート執筆に際しては、自分の考察・評価・批評の部分を主とし、引用した文献の部分を従として、区別すること。引用は「 」を用いて必ず明記すること。  
 ・引用符の使用、脚注を用いた原典の書誌情報、該当する引用元の原典引用範囲等に慎重に留意して、著作権を侵害しないこと。  
 ・参考文献・情報、要約した文献の出典は、レポートの最後にリストにし、明確に表示すること。  
 ・履修にあたって、日本美術をめぐる美術館や博物館の展示や文化財公開施設を、具体的に授業で紹介しますので、オンラインや実際に親しむ機会をできるだけつくるように心がけてください。